

## 第 122 回 中野区の花村像、新渡戸像、および森本像

筆者：林 久治（記載：2020年6月6日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は **Random Walks（乱歩）** という題名で **偏屈老人（林久治）の気俎な紀行文** のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

武漢肺炎による緊急事態宣言が5月26日0時に解除された。自粛期間中に、私は運動のため自宅付近を散歩していたが、段々億劫になりサボる日が多くなって来た。26日からは、趣味の銅像探索（新規銅像を [1）のサイト/f](#) に投稿）が可能な情勢となった。しかし、都心に行くのは未だ心配なので、先ずは自宅近くで探索しようと思う。本年になって、私は中野区立の本町図書館に土地提供者の花村四郎氏の銅像があることを知った。そこで、4月3日に当所に行ってみたが、館外には銅像がなく、館内は臨時休館であった。閲覧室立ち入りは6月1日からなので、早速1日には銅像探索に行った。また、本館の近くにある新渡戸文化短大にも、新渡戸稲造と森本厚吉の銅像があることも調査済なので、こちらの探索も行った。

[前回の記事/f](#) では、自粛散歩の第3報を記載した。本稿では、中野区のこれらの銅像探索記を記載する。図1には、中野区立本町図書館（図1の①）周辺の交通地図を示す。なお、本稿において、資料の記述を **緑文字** で、私の意見や説明を **青文字** で記載する。



図1. 中野区立本町図書館周辺の交通地図 本図は、[2）のサイト/f](#) より借用。

①中野区立本町図書館、②大江戸線中野坂上駅、③丸の内線中野坂上駅。

## (2) 中野区立本町図書館の花村四郎像

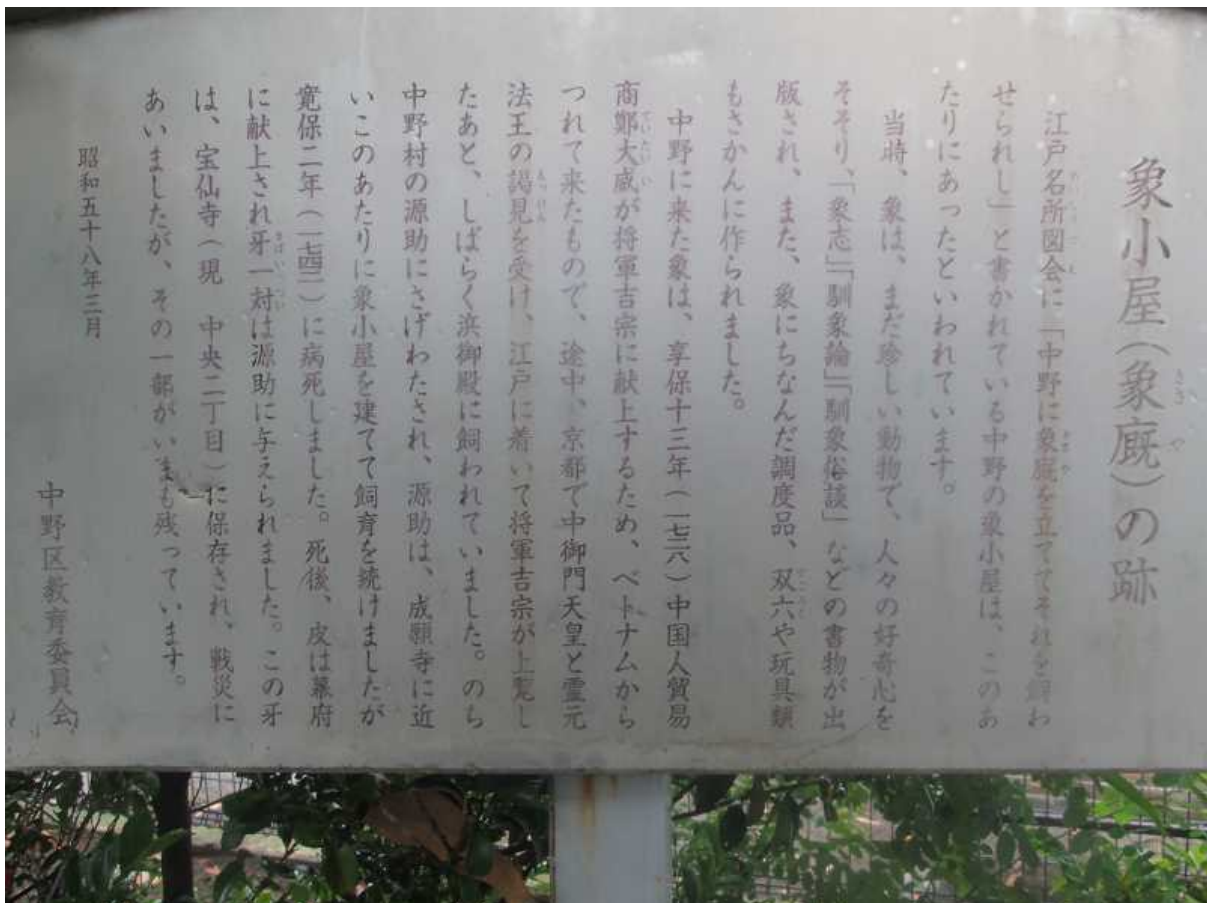
6月1日の午前10時頃、私は都営大江戸線を利用して、中野坂上駅（図2上の②）に着いた。当駅の周辺地図を図2上に示す。私は青梅街道を西に行き、宝仙寺前を南方に曲がった。しばらく歩いたが本町図書館に着かず、朝日が丘児童館（図2上の④）に来てしまった。私はスマホを持たないので、道ナビのサービスを利用することが出来ない。直線的な青梅街道から、南北に行く道路は、昔の農道なので曲がりくねっている。それ故、方向音痴の私はあらぬ方向に来てしまったのである。ここには、図2下に示すような「象小屋（象廐）の跡」の案内板があった。このような旧跡に思いがけなく出会うのも、銅像探索の醍醐味の一つである。



図2. 上：中野坂上駅の周辺地図、本図は、[3\)のサイト/](#)より借用。

- ① 中野区立本町図書館
- ② 大江戸線中野坂上駅、
- ③ 丸の内線中野坂上駅、
- ④ 朝日が丘児童館。

下：「象小屋（象廐）の跡」の案内板。



この案内板の文字は風雨にさらされ不明瞭になっていたが、[4\) のサイト/6](#)にはその全文が次のように収録されている。

### 象小屋（象厩）の跡

江戸名所図会に「中野に象厩（きさや）を立ててそれを飼わせられし」と書かれている中野の象小屋は、このあたりにあったといわれています。

当時、象は、まだ珍しい動物で、人々の好奇心をそそり、「象志」「馴象論」「馴象俗談」などの書物が出版され、また、象にちなんだ調度品、双六（すごろく）や玩具類もさかんに作られました。

中野に来た象は、享保十三年（一七二八）中国人貿易商鄭大威（ていたい）が将軍吉宗に献上するため、ベトナムからつれて来たもので、途中、京都で中御門天皇と靈元法王の謁見を受け、江戸に着いて将軍吉宗が上覧したあと、しばらく浜御殿に飼われていました。のち中野村の源助にさげわたされ、源助は、成願寺に近いこのあたりに象小屋を建てて飼育を続けましたが寛保二年（一七四二）に病死しました。死後、皮は幕府に献上され牙一對（きば いっつい）は源助に与えられました。この牙は、宝仙寺（現 中央二丁目）に保存され、戦災にあいましたが、その一部がいまも残っています。

昭和五十八年三月 中野区教育委員会

朝日が丘児童館から本町図書館を目指して歩くと、東京工芸大学（図1参照）に着いた。道路から校舎玄関の内部を覗いて見ると、1体の銅像が目に入った。すると、警備員のオジサンが目敏くやって来て、「何ですか？」と咎められた。そこで、私が「その銅像の写真を撮ってもいいですか？」と尋ねると、「建物内部は撮影禁止です」との素気無い返事が返って来た。「誰ですか？」と聞くと、「大学の創立者です」と答えてくれた。帰宅後、ネットで調べてみると、それは六代目杉浦六右衛門氏であることが分かった。私は警備員に本町図書館への道順を尋ねて、やっと本館に辿り着いた。その写真を図3に示す。



図3. 中野区立本町図書館

本館は私の事前調査の通りに、当日から閲覧自由になっており、難なく2階まで行くことが出来た。階段上の2階ロビーには、小ぶりの胸像が設置されていた。その写真を図4に示す。



図4. 中野区立本町図書館に設置された花村四郎像と台座の銘文

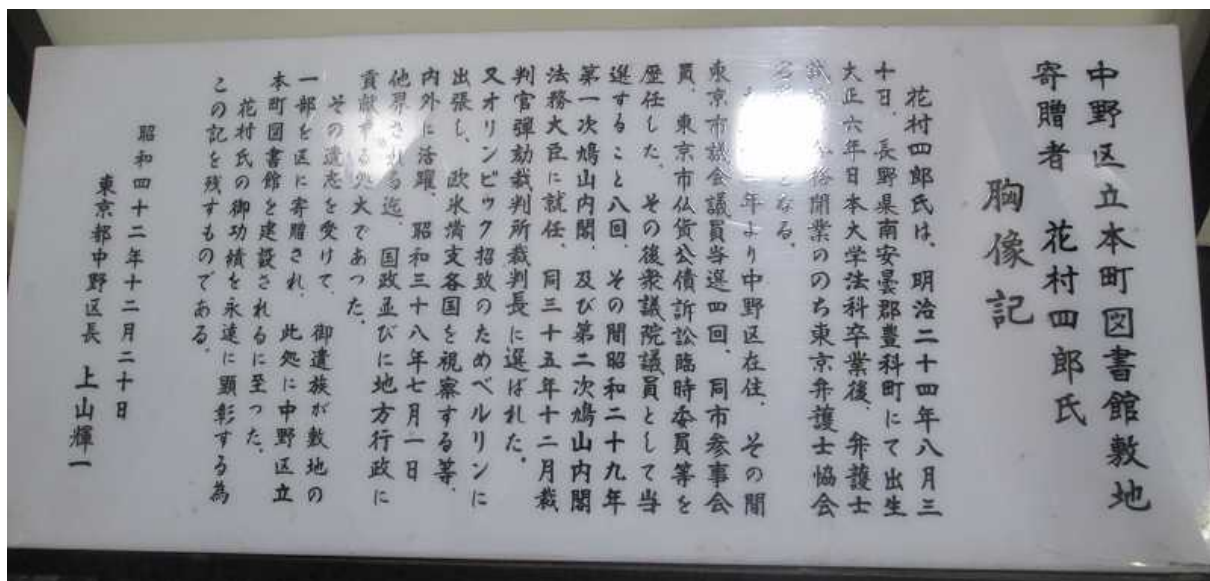


図5. 花村四郎氏の胸像記

胸像の横には、「胸像記」が掲示されていた。その写真を図5に示す。この全文を以下に示す。

中野区立本町図書館敷地 寄贈者 花村四郎氏 胸像記

花村四郎氏は、明治二十四年八月三十日、長野県南安曇郡豊科町にて出生。大正六年日本大学法科卒業後、弁護士試験に合格後開業ののち東京弁護士協会名誉理事となる。

大正十三年より中野区在住、その間東京市議会議員当選四回、同市参事員、東京市公債訴訟臨時委員等を歴任した。その後衆議院議員として当選すること八回、その間昭和二十九年第一次鳩山内閣、および第二次鳩山内閣に就任。同三十五年二月裁判官弾劾裁判所裁判長に選ばれた。

又オリンピック招致のためベルリンに出張し、欧米満支各国を視察する等、内外に活躍。昭和三十八年七月一日他界される迄、国政及び地方行政に貢献する処大であった。

その遺志を受けて、御遺族が敷地の一部を区に寄贈され、此処に中野区立本町図書館を建設されるに至った。

花村氏の御功績を永遠に顕彰する為この記を残すものである。

昭和四十二年十二月二十日 東京都中野区長 上山輝一

なお、明治二十四年は1891年、大正六年は1917年、大正十三年は1924年、昭和二十九年は1954年、昭和三十八年は1963年、昭和四十二年は1967年である。

以上の資料とウィキペディアにより、花村像の概要は次の通りである。

花村四郎先生之像

場所：東京都中野区本町2-13 -2 中野区立本町図書館2階ホール

建立時期：1967年12月20日に胸像記が書かれた。制作者：不明

設置経緯：花村四郎氏（1891-1963）は長野県南安曇郡豊科町（現・安曇野市）出身。1917年に日大法学部卒業後、東京で弁護士を開業。1924年より中野区に在住。1932年より東京市会議員（4期）、1942年より衆議院議員（8期）。1954年には第一次および第二次鳩山内閣で法務大臣に就任。ご遺族が土地の一部を区に寄贈し、1968年1月5日に本町図書館が開館。

### (3) 新渡戸文化短大

私が本町図書館の花村像探索を準備していた時、本館の付近に他に銅像があるかどうかを調べてみた。その結果、同じ中野区本町にある新渡戸文化短大に、新渡戸稲造と森本厚吉の銅像があることを発見した。この時、私は新渡戸文化短大の存在さえ知らなかったのので、ウィキペディアで調べて見た。その結果、次の事項が分かった。

①新渡戸文化短期大学（にとべぶんかたんきだいがく、英語：Nitobe Bunka College）は、東京都中野区本町六丁目 38 番 1 号に本部を置く日本の私立大学である。1950 年に設置された。経営母体ははじめ学校法人東京文化学園で、2008 年度より学校法人新渡戸文化学園に組織変更し、大学名も 2010 年度、東京文化短期大学から改称した。当初は家政科のみの単科短大だったが、現在は 1 学科と 1 学科 2 専攻からなっている。同区本町に生活学科が、中野に臨床検査学科のキャンパスが其々置かれている。

②新渡戸文化短期大学は 1927 年 森本厚吉により東京市本郷区元町に創始された女子文化高等学院にはじまり、以来女子のみの教育を行ってきたが、近年男女共学となった。従来は家政系の短大というイメージが強かったが、現在は福祉社会において活躍できる人材を育成する短大というイメージに衣替えしている。本学の建学精神は「Head・Hands・Heart」となっている。これは「はたらく頭、勤しむ双手、ひろき心」を意味する。

③日本最初の臨床検査技師養成施設である。本校には「臨床検査教育発祥の地」という記念碑が建立されている。

④系列校として、新渡戸文化中学校・高等学校、新渡戸文化小学校、および新渡戸文化子ども園がある。

また、[5\) のサイト/m](#)には次のような記載がある。

“臨床検査技師”とは、診療機関において微生物検査・病理検査・生理学的検査 等々の検査を行い、医師が病気の診断を行うためのデータを得ることが業務で、国家資格となっている。1952 年に臨床検査の重要性が認識されて、東京文化短期大学に「医学技術研究室」が設置され、その 3 年後の 1955 年、我が国最初の臨床検査技師養成校「東京文化医学技術学校」となった。これが日本の臨床検査教育の始まりとされている。

私は本町図書館で花村像を探索した後、青梅街道を都バスに乗って、「中野天神」で下車し本学に向かった。中野天神は小さい神社であったが、[6\) のサイト/1](#)には、次のような紹介文がある（写真も掲載されている）。

北野神社・西町天神は、中野天神という別称。江戸時代から境内にそびえ立ち、周辺住民の目安、憩いの場にもなっていた大銀杏は、昭和 54 年（1979）の台風の被害を受けて倒伏したものの住民の努力でここまで回復したのだそう。その昔は、追分・鍋屋横丁（新中野）・高円寺押出・金灯籠（杉並区和田）からも見えたそうで、大体 600m～800m 離れたところからも見えるほど大きかったようだ。

図 1 に、本学の位置を示したが、本学は青梅街道には面しておらず、所在地がよく分からなかった。幸い、青梅街道には、次ページの図 6 上に示すような新渡戸文化学園の案内板があったので、それに従って本学に難なく到着することが出来た。その正門を、図 6 中に示す。

（本文は、8 ページに続く。）



図6. 上：青梅街道に面した新渡戸文化学園の案内板、中：新渡戸文化学園の正門、下：正門の門柱に掲示されたネームプレート。

新渡戸文化学園の東高円寺キャンパスの構内図を図7に示す。正門（図7の①）から、立像（図7の②）と胸像（図7の③）が見えた。私は、「ここは女子大だ」と思い込んでいたので、正門にいた警備員のオジサンに「発祥の地の記念碑を拝見できますか？」と恐る恐る尋ねた。彼は一瞬、怪訝な顔をしていたが、同僚の方に「中庭の記念碑だよ」と言われて、入構を許可して頂いた。私が記念碑や銅像の写真を撮っている間、彼は黙っていたので、目的の撮影を行うことが出来た次第である。



図7. 新渡戸文化学園の東高円寺キャンパスの構内図 本図は、[7\)のサイト/](#)より借用。①正門、②森本厚吉立像、③新渡戸稲造胸像と「臨床検査教育発祥の地」の記念碑。

(4) 森本厚吉立像と新渡戸稲造像



図8. 森本厚吉先生像  
設置場所は図7の②。





図8に森本厚吉先生像を示す。図9上には本像台座の銘文を示す。図9下左には本像の向かって左側に設置された、「創立者森本厚吉先生の教育指針」（3H精神）の碑を示す。図9下右には森本像の右側に埋め込まれた「文化アパートメント」のパネルを示す。ウィキペディア（文化アパートメント）に、次の記載がある。

文化アパートメントは、現在の東京都文京区御茶ノ水にかつてあった共同住宅。1922年、森本厚吉が設立した財団法人文化普及会（文化普及會）によって建設された、日本初の洋式集合住宅である。1926年12月に開館し、1943年3月に閉鎖された。W・M・ヴォーリズによって設計され、施工は大林組。住居内はすべて純洋式。ベッド、椅子、テーブル、電話、ガス調理台、マンツルピース、そして共用の施設として社交室、カフェ、食堂、店舗が用意され、エレベーター、焼却炉が備わっており、掃除・洗濯はメイドが行い、アパートよりもホテルの生活に近かった。戦後、進駐軍将校の宿舎として使われ、その後旺文社に売却され、日本学生会館として受験生や修学旅行生の都内宿泊施設として利用されたが、1986年に老朽化のため取り壊された。



図8．上：本像台座の銘文、下左：「創立者森本厚吉先生の教育指針」（3H精神）の碑、下右：「文化アパートメント」のパネル。

森本厚吉博士（1877-1950）の略歴は、[8](#)のサイト/pに詳しく紹介されているので、本稿では記載しない。上記の資料とウィキペディア（森本厚吉）により、森本像の概要は次の通りである。

#### 森本厚吉先生像

場所：東京都中野区本町6-38-1 新渡戸文化学園、正門右横奥

建立時期：1962年、制作者：不明

設置経緯：森本厚吉博士（もりもと・こうきち、1877-1950）は舞鶴市出身。新渡戸稲造博士を慕って札幌農学校に入学、1901年に卒業。米国留学後、1918年に北海道帝国大学

農科大学教授。 1927年、東京市本郷区元町に女子文化高等学院を創設し、理事長に就任。1928年、女子専門学校に昇格して学校名を「女子経済専門学校」と改め、校長に新渡戸博士を迎えた。1933年に新渡戸校長が逝去し、専門学校及び付属高等女学校校長に就任。

本学の中庭（図7の③地点）に、新渡戸稲造胸像と「臨床検査教育発祥の地」の記念碑が設置されていた。その写真を、図9上に示す。胸像横に設置されていた「初代校長新渡戸稲造先生の遺訓」の碑の写真図9下に示す。遺訓の碑には次のように書かれていた。太平洋の架け橋にならん 人格の後光を放て



図9. 上：中庭に設置された新渡戸像と「臨床検査教育発祥の地」の記念碑、  
下：「初代校長新渡戸稲造先生の遺訓」の碑。



図 10. 左：新渡戸稲造先生像、右：「臨床検査教育発祥の地」の記念碑。

図 10 左には新渡戸稲造先生像の近接写真を、図 10 右には「臨床検査教育発祥の地」の記念碑の近接写真を示す。胸像の台座正面には「**新渡戸稲造先生像**」の銘文が貼付されていた。台座の向かって右側の側面には「新渡戸稲造先生略歴」の銘文が貼付されていた。その写真を次ページの図 11 に示す。その銘文には、次のように書かれていた。

#### 新渡戸稲造先生略歴

- 文久二年（1862） 九月一日新渡戸十次郎の三男として盛岡で誕生
- 明治十年（1877） 札幌農学校に入学 クラーク博士の教えを受けキリスト教に入信
- 明治十六年（1883） 東京帝国大学に入学 英文学 理財学 統計学を学ぶ
- 明治十七年（1884） アメリカへ留学 ジョーンズ・ホプキンス大学入学
- 明治二十年（1887） ドイツに留学 農政学 農業経済学 統計学などを研究
- 明治三十二年（1899） 農学博士となる 英文 {武士道} を刊行
- 明治三十九年（1906） 法学博士となる 第一高等学校の校長に就任
- 大正二年（1913） 東京帝国大学教授に就任
- 大正七年（1918） 初代の東京女子大学長に就任
- 大正九年（1920） 国際連盟事務局次長に就任 六年間ジュネーブに滞在
- 大正十五年（1926） 貴族院議員に勅撰される
- 昭和三年（1928） 本学の前身[女子経済専門学校]の初代校長となる

昭和八年（1933） 十月十六日カナダのビクトリア市で没す 勲一等瑞宝章を授る  
新渡戸稲造先生は 明治大正昭和初期の日本を代表する偉大な教育思想家でありかつ国際的な知識人でした。

先生は かねてから日本における女子教育の改善を考えていました。その精神を受け継ぐ愛弟子の森本厚吉先生を援けようと決意。本校の初代校長に就任されました。

創立 70 周年を記念して建立

平成八年八月吉日 学校法人東京文化学園

（なお、上記の記載には誤解を生む部分がある。新渡戸少年は 15 歳の時、札幌農学校に二期生として入学した。クラーク博士は同校の開校時に 1 年契約で教頭に就任したが、新渡戸が入学した時には、博士は入れ違いに帰国していた。しかし、新渡戸、内村鑑三らの二期生は、博士から直接学んだ一期生から強い影響を受け、キリスト教にも入信した。）



図 11. 「新渡戸稲造先生略歴」の銘文

上記の資料とウィキペディア（新渡戸稲造）により、新渡戸像の概要は次の通りである。

新渡戸稲造先生像

場所：東京都中野区本町 6-38-1 新渡戸文化学園、中庭

建立時期：1996 年 8 月 創立 70 周年を記念して建立

制作者：不明

設置経緯：新渡戸稲造博士（1860-1933）は、明治・大正・昭和初期の日本を代表する偉大な教育思想家であり、かつ国際的な知識人でした。博士は、かねてから日本における女子教育の改善を考えていました。その精神を受け継ぐ愛弟子の森本厚吉博士を援けようと決意し、1928年に本学の前身「女子経済専門学校」の初代校長に就任。

なお、以下の新渡戸文化学園関係資料は重要だと思しますので、興味のある方はご覧下さい。

[8\) のサイト/p](#)：森本厚吉博士（1877-1950）の略歴

[9\) のサイト/m](#)：臨床検査技師教育発祥の地

[10\) のサイト/](#)：学校案内（学長の言葉）、2020年4月1日 新渡戸文化短期大学  
学長 木村 直史

[11\) のサイト/1](#)：短期大学創立50周年 記念式典 講演 2000.10.14.

短期大学の創立をめぐる話 理事長 森本晴生（厚吉の孫）：

[12\) のサイト/1](#)：文化アパートメントの紹介

#### 参考資料

1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>

2) のサイト：

[https://www.kotsu.metro.tokyo.jp/bus/map/pdf/2020allmap\\_high.pdf](https://www.kotsu.metro.tokyo.jp/bus/map/pdf/2020allmap_high.pdf)

3) のサイト：<https://www.mapion.co.jp/phonebook/M16006/13114/21330416740/>

4) のサイト：<https://ja.monumen.to/spots/1266>

5) のサイト：<https://www.hamadayori.com/hass-col/medical/RinshoKensa.htm>

6) のサイト：<https://ameblo.jp/benben7887/entry-12412025190.html>

7) のサイト：<https://www.nitobebunka.ac.jp/about/campus/>

8) のサイト：

[https://www.nitobebunka.ac.jp/morimoto\\_gakuen/morimoto\\_index.php](https://www.nitobebunka.ac.jp/morimoto_gakuen/morimoto_index.php)

9) のサイト：<https://www.hamadayori.com/hass-col/medical/RinshoKensa.htm>

10) のサイト：<https://www.nitobebunka.jp/about/message/>

11) のサイト：[http://www.tokyobunka.ac.jp/dataroom/topix/jc50/hm\\_koen.html](http://www.tokyobunka.ac.jp/dataroom/topix/jc50/hm_koen.html)

12) のサイト：<http://www.tokyobunka.ac.jp/dataroom/apart/apart01.html>